

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071400240		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名	グループホームガーデンライフ		
所在地	海南市船尾265-8		
自己評価作成日	令和5年2月5日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3071400240-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	令和5年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『のんびり・ゆっくり〇(まあるく)ゆこう』をモットーに住み慣れた地域の中で、心穏やかに笑顔の絶えない事業所を目指しています。入居者様の残存機能を維持出来るように日々ケアに努めています。昨年、入居者様の1/3名の入退居があり家族様との交流を積極的に行なっているところです。母体が医療法人であり病院や老健施設が併設しており24時間、医療との連携が確保されています。

ホーム内に掲げている理念に基づき、入居者、職員は穏やかで、笑いがあり、壁や床等はたくさんの木材を使った仕様になっていて、時間の流れを感じさせない居心地の良さが感じられる。入居者、職員は開設当時からいる人も多く、100歳を超えている人も入居されていて、家族共なじみの関係性等が構築できているホームである。病院、老健施設が併設していて、24時間の対応、医師による往診、週1回の看護師の訪問等により、入居者、家族の医療的不安が解消され、職員も安心して支援ができています。ホームのネーミングのように、ガーデンライフを楽しむために、ホームの屋上には広々とした庭園があり、野菜、木々や草花が植えられ、ガーデンサポーターのボランティアが援助している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他に『のんびり・ゆっくり・(まあるく)ゆこう』を独自に掲げている。入居者様には住み慣れた地域の中で穏やかに安心して笑顔の絶えない日々を送って頂けるように努めている。	管理者と職員は、掲げている理念に基づき、入居者がゆったりとして生活ができるよう、言葉かけに配慮する等様々な工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの先生や地域学生の体験学習の受け入れなど行っていたが、コロナ対策で一昨年より出来ていない。昨年、地域の漆器祭りが復活し参加、文化祭への作品の展示を行った。	昨年、地域の漆器祭りに、入居者の作品を展示する等して参加したが、今後は、コロナ前のように、ボランティアの先生や地域の学生の体験学習の受け入れを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『認知症になっても安心して暮らせる町作り』を目指し『認知症サポーター養成講座』を行ったりしていたが、コロナ対策で行えていない。今年2月下旬に黒江地区での『徘徊模擬訓練』が市主催であるので参加予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催していたがコロナで一昨年より行えていない。市には議事録としてミーティングや研修で行った内容をまとめ郵送で送っている。	コロナの影響で、市役所担当者が参加した運営推進会議は行えていないが、コロナ前には、災害対策マニュアルについての助言をもらい、マニュアルの見直しを検討した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が入居されているので、市のくらし課の方が面談に来られたり、情報を提供、地域包括支援センターとは、入居待機人数の情報などを提供している。	生活保護、要介護認定等の担当部署の職員、地域包括支援センター職員とは、入居者の生活状況等の情報提供をする等連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	老健側の扉を開けており、入居者様・他部署のスタッフや老健に入居されている方の訪問など自由に出入り出来る様にしている。やもを得ず施錠する時は施錠が身体拘束であることを職員は認識している。	玄関の施錠、言葉遣い等身体拘束に関して、法人内、外部研修を受講する等して、職員は正しく認識し、実践している。やむを得ず、玄関を施錠する場合は、入居者や職員が把握できるように、施設内の出入り口扉に表示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様1人1人を尊重したケアを目指している。言葉遣いでは『スピーチロック』に又、今はマスクをしているので、『フェイスロック』にならないよう目元に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に研修に参加出来る機会があるが、コロナ対策で参加出来ていない。リモート研修などの参加を行い、参加した職員が伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当初と変わらず文章と口頭で説明させて頂いている。また、介護報酬改訂時には文章と口頭で説明し確認して頂いてから新たに契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当を設けている。家族様の来所時には利用者様の日頃の様子を報告したり、コミュニケーションを積極的に行い意見や要望を出して頂ける雰囲気作りや環境作りに努めている。	家族から自分の親の食事に関する要望があり、適宜対応する等して、日頃から家族とのコミュニケーションが円滑に行えるように、来訪時には声掛けする等している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員ミーティングを行っている。朝の申し送りの時に情報の共有や意見交換、入居者様の気になる事を話し合う時もある。不参加の職員には伝達ノートを見てもらい見たらサインをするようにしている。	日々の業務が円滑に行えるように、職員から買い物時間について見直しの意見があり、ミーティングで意見交換して改善を図る等、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート・準常勤が多い中、資格習得や業績人事考課により、時給値上げがある。また、準常勤や正職員への昇格などの制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ対策で研修や講習に参加出来ていないが、2ヶ月に1度リモート研修を行っている。内容は今自分達に何が 필요한のか職員達で吟味しながら選らんでいる。視聴したらレポートの提出をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加していたが、コロナで開催できず、書面で情報交換や悩みや分からない事があれば連絡し交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅やサービス事業所・入院先など直接お会いして、本人様の思いや考えを聞いている。事前にホームに足を運んで頂いたり、不安にならないように雰囲気や職員の顔を覚えて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前には事業所の見学をして頂いている。入居後は家族様には近況報告や要望をお聞きしながらケアに生かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様・担当のケアマネジャーより話を聞き内容を見極め、必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る事が少なくなっていく中、一緒にする事が全てではなく、ただ傍に居てくれる、声を掛けてくれた、手を握ってくれる安心感、この人の声や顔を見ると、安心する関係性を今後も築いて行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払いに月1回は来所して頂く機会を設けている。必要に応じて電話での報告や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多く、出来るだけ関りが持てるようにと思っているが、お互い高齢な事もあり難しくなっている。また、コロナ対策で面会も出来ない。	コロナの影響で、今までのように友人等とは面会ができていないが、家族とは、月1回の利用料を支払いに来た時に、玄関のガラス越しに面会ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の邪魔をしないように見守っているが、耳が遠くて聞こえにくく、話が噛み合わない。その時は職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に転居された方は、様子を見にその施設に出向いたり、電話などでの様子伺いなどを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後も日々の暮らしの中で思いを聴くように努めている。自分から思いを言えない時には、職員がその人の思いを考えたり、家族様に意向をお聞きして本人様本位なのかどうか見極める様に努めている。	入居者の意向等を把握できるよう、家族から情報収集した内容や、日々の関わりの中で、気付いたことを職員間で共有できるように、ミーティングで意見交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後のアセスメントにより、本人・家族様・担当ケアマネや事業所などに情報を得ている。入居後も本人様や家族様にお聞きして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の顔色や表情・仕草や話す言葉の内容から、体調の変化に気付いたり、入居者様の持っている力が発揮出来る様にまた、現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナで家族様を交えての会議は出来ないが、3ヶ月に一度ケアマネと事業所スタッフとでモニタリングを行い、後日家族様に報告・説明しサインを頂いている。	入居者、家族が見て分かりやすい文言の書式に変更し、入居者、家族、主治医、訪問看護師、スタッフ等の意見を反映して、本人の望む自立した暮らしができるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の生活記録に記入。3ヶ月に1度のモニタリングを始め、スタッフからの発信よりカンファレンスを行う時もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している病院の付き添いや、他の病院(整形外科・歯科・眼科・婦人科)などの付き添いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策でボランティアの先生方の受け入れや地域の体験学習の受け入れが出来ていないが、昨年3年ぶりに地域の漆器祭りの文化祭へ作品を展示参加出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので24時間連携が確保され、入居者様の殆どの方の主治医が併設されている病院の医師である。1ヶ月に1度訪問診療を受けている。家族様の要望があれば、他の病院の紹介や診察の同行をしている。	併設している病院の付き添いや、整形外科等他の医療機関への通院支援をしている。また、歯科等の訪問診療の支援も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院を始め、老健・透析室の看護師との協力体制が築けている。また、週に1度、透析室の看護師による訪問看護があり相談やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設している病院の地域連携室との連携が出来ている。情報交換や共有が出来ているため、入退院時の支援がスムーズに行えている。また、他の病院との交流があり、空き状況などの情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『看取りの指針』について説明しているが、初めに家族様の意向をお聞きしている。重度化や急変時など変化のある時には家族様と再度話し合っている。また、状態により医師に相談したり、話し合いに入っている。	入居時に、重度化した場合や終末期について家族の意向を聞き取り、職員や関係者で共有し、施設での見取りの意向がある場合には、見取りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の変化にすぐに気づき、災害時にも瞬時に対応出来るようにまた、防災委員会との連携を行い訓練など行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ対策で中止になっていた年2回の法人全体の消防訓練も昨年より再開、参加している。自ホームでの訓練も行うように、また防災委員会との連携で卓上訓練やリモート研修を今後参加の予定にしている。	災害対策のマニュアルがあり、それに基づき、法人全体、自施設での入居者を含めた消防訓練等を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の理解が難しくなっていく中、その人に合わせた声のトーンやゆっくりと分かりやすい言葉掛けを心掛けている。又、難聴の方には、時にはジェスチャーを交える時もある。	日々の業務の中で、入居者に対する声かけ、対応等、職員は個人の人格が損なわれないように努め、入居者の呼称については、本人の意向を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二者択一で出来るだけ入居者様の意思で決めてもらうように支援している。また、その方の立場に立ち職員同士で話し合ったり家族様の協力を得ながら決める時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れがある。その日1日を楽しみ過ごして頂くために、その日の状態に合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選べる方には、選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さりげなく声掛け、一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーのチラシを見ながら、献立や何が食べたいかなどさり気なく聞き食卓へ。入居者様の嚙下状態に合わせて普通食・あら刻み・刻み・ミキサー食と提供。病院の栄養士にも相談・アドバイスを頂く時もある。	重度化した入居者が多く、個々のできることに配慮して、盛り付け等を職員と一緒にしている。また、お酒が楽しめるように、本人の意向を聞き取り、ノンアルコールの飲料を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分はチェック表で管理、食事やおやつ以外にも飲みたい時に飲んで頂いたり入浴後や10時頃に提供、水分補給に努めている。食欲不振には、本人様にお聞きして『食事』にとらわれず食べたい物を食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には声掛けや見守りを行い、介助の方は職員が行っている。週2回洗浄剤で義歯を洗浄、噛み合わせが合わない時には訪問歯科医に連絡し治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で個々の排泄パターンを把握、自己にて行かれる方にはさりげなく様子伺いし、困っている時には介助させて頂いている。夜間、PTイレを使用されている方も日中はトイレを使用介助させて頂いている。	入居者の多数はリハビリパンツを使用しているが、排泄パターンを把握して、随時トイレ誘導を実施して、排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便して頂きたいので、冷たい牛乳や蜂蜜湯・ヨーグルト、水分をたくさん取ってもらうようにまた、食物繊維の多い食べ物を提供。摂取出来る様に食事に取り入れる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の好きな時間に入って頂きたいのですが、重症の方もいらっしゃる中、曜日を決めて入浴して頂いている。軽症の方には声掛け・見守りを行い入浴して頂いている。	入浴が楽しめるように、ゆず湯等の取り組みをしている。また、重度化している入居者については、シャワー浴対応をしている。	今後、入居者が重度化した場合を考慮して、職員、入居者の身体的負担軽減のために、リフト浴等の対応の検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の日安はありますが、起きたい時に起きて、寝たい時に寝て頂いている。入居者様の体調をみて休む事を勧める時もある。照明の明るさや布団の調整などにも気配り寒い時には、暖房の他に床暖房や湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、内容や副作用の説明書は誰でも見れる場所にあり、確認出来るようにしている。服薬時には『お薬確認シート』があり、誤薬の予防に努めている。訪問診療時、医師にに入居者様の体調や様子を報告し投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知機能の低下や身体機能の衰えにより難しくなっているが、その人の得意だった事や好きだった事が1つでも出来る様に職員がサポートし楽しんで頂ける様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で戸外に行けていない。が、気分転換を兼ねて屋上へ日向ぼっこをしたり、洗濯干しや野菜の収穫をいっている。	コロナの影響で、外出はできていないが、屋上庭園で野菜の収穫等を楽しめるように支援している。今後は、近くの公園での花見や、屋上庭園については、ガーデンサポーターのボランティアを予定し、戸外での楽しみを増やせるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『お金』を持っているだけで安心される方も多いですが『紛失』する事もあります。家族様には話を理解と承諾を頂いている。お小遣い程度の金額をもって頂いているが、コロナで外出出来ず、今は使えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど家族様やボランティアの先生方宛てに送らせて頂いている。電話は希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時々、リビングのテーブルの配置や席替えをしている。折々の季節を感じてもらいたいので、雛祭りや五月の節句、七夕飾り・クリスマスの飾り付けをしている。各居室の表札の所には、月々の飾り付けを行い五感を刺激するように努めている。	リビングは広々としていて、窓からは季節を感じられるように、折りたたみのテーブルを取り付けていて、そこで食事が楽しめるような工夫をしている。また、ソファでゆったりと過ごしている入居者がいる等共用空間の居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子やソファを置き、好きな所で休んで頂いている。1人になりたい時や洗濯物を畳んだりする時に座ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使用していた物を依頼するが、あまり無いよう予め事業所にある筆筒など使用して頂いている。筆筒の位置やベットの高さなど本人様の動きやすい様に配置や調整を行っている。	居室には、使い慣れた筆筒を置いて、その上には家族の写真や本人の手作り作品等を飾り、過ごしやすいように支援し、各居室の玄関の表札には、自分の部屋を認識できるように、写真等を飾る等の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札・トイレには張り紙をして分かってもらえる様に努めている。		